

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	120分
-----	--------------	------	------

- ・短編小説とは、なんらかの思想に基づく長編小説とは異なり、作者の捉えたイメージを時間をかけて醸成させ、読者に素早くそのイメージを印象づけるために緊密な文章表現を必要とすることを述べた文章からの出題。
- ・本文の分量は昨年度よりかなり減少しており、また読みやすい文体でもあり、受験生にとっては昨年度より取り組みやすいと思われる。ただし、漢字問題の出題がなく、すべて説明問題となり、解答欄の分量も昨年の14行から19行に大幅に増加している。難度は、ほぼ例年並。
- ・昨年同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問五がなく、全四問の出題となっている。

<本文分析>

大問番号	<input type="text"/>
出典 (作者)	阿部昭『短編小説礼讃』
頻出度合 ・的中等	1993年度後期試験で同一著者による『散文の基本』が出題されている。
分量 前年比較	分量 (減少)・変化なし・増加
難易 前年比較	難易 (易化)・変化なし・難化

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
<input type="text"/>	評論	問一 問二 問三 問四 問五	記述式 記述式 記述式 記述式 記述式	標準 標準 標準 標準 標準	傍線部の理由を説明する問題 (解答欄3行) 傍線部の内容を対比的に説明する問題 (解答欄3行) 傍線部の理由を説明する問題 (解答欄4行) 傍線部の理由を、後の二つの段落を踏まえて説明する問題。(解答欄4行) 本文全体の論旨を踏まえて、どのように「優れた短編」が生み出されるかを説明する問題。(解答欄5行)

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・たんに字面を追うだけの読みとりでは高得点は望めない。文章の主題や筆者の主張を本文全体からの的確に把握するとともに、個々の文脈を精確に押さえる読解力が不可欠である。
- ・また、設問の意図をふまえた上で、理解した事柄を簡潔・的確に表現してみるといった訓練も欠かせないだろう。
- ・なお、書き上げた自分の答案を音読して、解答の構成や表現が適切かどうかを確かめることを、普段の学習に取り入れてみよう。文章表現の訓練の一助となるはずだ。
- ・昨年度とは違い漢字の設問はなかったが、読解力養成の前提として、漢字の知識の蓄積を怠らないこと。

<総括>

出題数

現代文 2題・古文 1題

試験時間

120分

- ・老境に入り親しい者の死に際会する機会の多くなった筆者が、その経験を通して自身の死生観を述べた随筆からの出題。
- ・一昨年の出題文(幸田文「旅がへり」)同様に典型的な随筆であるため、本文は読みやすかつただろうがどのように解答をまとめればよいのかに苦慮したかも知れない。
- ・なお、解答行数が昨年よりも4行増加した。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	里見淳「私の一日」
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量 (減少)・変化なし・増加 *約800字減。
難易 前年比較	難易 (易化)・変化なし・難化

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	随筆	問一 問二 問三 問四 問五	記述式 記述式 記述式 記述式 記述式	難 標準 標準 標準 標準	傍線部の内容説明問題(解答欄4行) 傍線部の内容説明問題(解答欄3行) 傍線部の内容説明問題(解答欄4行) 傍線部の理由説明問題(解答欄3行) 傍線部の内容を踏まえ、筆者が「親しい人の死をどのように受けとめるようになったのか」を説明する問題。(解答欄5行)

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・本年の文系二では随筆らしい随筆からの出題であったが、これまでの出題を踏まえ、小説や評論も含めてできるだけ多様な文章に接しておくことが肝要である(なお、本年は出題されなかったが、明治期の文語文からの出題も念頭には置いておくこと)。
- ・問題に取り組む際には、文章の主題と絡ませながら筆者の考えや思いを本文全体から大きく把握するとともに、個々の文脈の趣旨を的確に読み取っていくことが肝要である。その上で、理解した事柄を〈簡潔かつ分かりやすく表現する〉といった訓練は欠かせない。

<総括>

出題数	現代文 2題 ・ 古文 1題	試験時間	120分
-----	----------------	------	------

- ・平安前期の作り物語『うつほ物語』からの出題で、昨年に続いて有名出典からの出題であった。
- ・解答数は昨年同様5つであった。
- ・和歌に関する設問が二年連続で出題された。昨年は注に示された和歌の内容を考えなければならない設問があり、今年は和歌自体には傍線を引いていないものの、本文中の和歌を踏まえて説明させる設問があった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『うつほ物語』
頻出度合 ・的中等	頻出出典、出題箇所は稀
分量 前年比較	分量 (減少・変化なし・増加) 約870字 (前年は約640字)
難易 前年比較	難易 (易化・変化なし・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	作り物語	問一	記述式	標準	現代語訳問題。「主語や指示語の内容を明らかにしつつ」という条件が付いている。 (1)は、「これを」の具体的な訳出、「人の」の同格、「よろしき」の訳出、「いづこにか」の反語などがポイント。 (解答欄2行)
		問二	記述式	標準	説明問題。「直前の和歌の内容を踏まえて」の条件がついている。女君の和歌の主旨を踏まえることがポイント。(解答欄2行)
		問三	記述式	標準	理由説明問題。傍線が付されていないので、解答にあたる部分を探す必要があるが、それを探すのはそれほど難しくはない。(解答欄4行)

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・一昨年と同じ平安時代からの出題であったので、『源氏物語』を代表とする中古の典型的な古文に慣れておく必要がある。
- ・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の内容を正確に理解する練習を平素からおこなっておくこと。
- ・本文全体を現代語訳できるかどうか京大文系古文の根本である。何よりも現代語訳を記述する練習が望まれる。
- ・今年は本文中に和歌があり、それを踏まえる設問があった。修辞、現代語訳、内容説明など和歌に関する対策は必ずしておきたい。